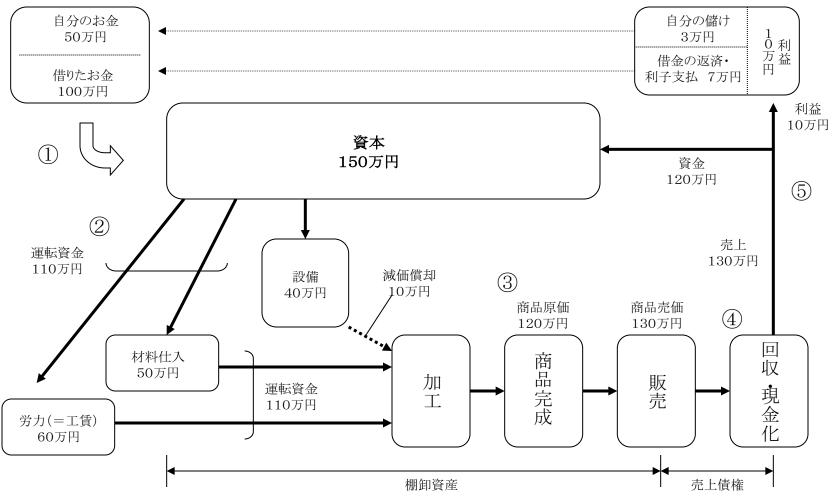
事業資金の回転



<想定>

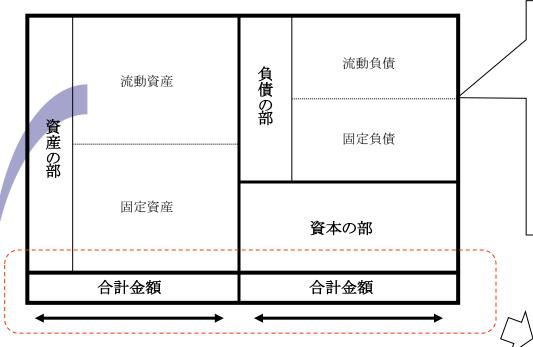
- ☆ 事業のスタートの場合を想定する。
- ☆ 事業のネタ自体は豊富にあるものとし、仕事が取れない状態は想定しない。
- ☆ 工員は、決まった1回の製造に必要な人数を、必要な日数分のみ雇えると想定します。

<資本の形の推移>

- ① 現金 150万円。
- ② 現金 0万円、設備 40万円、材料 50万円、アルバイト数人。
- ③ 現金 0万円、設備 30万円、商品 120万円相当。

- ④ 現金 0万円、設備 30万円、請求書発行済み債権 130万円。
- ⑤ 現金 130万円、設備 30万円。
- ⇒現金は、次の生産へ向けて110万円の支払と、10万円の設備投資に当てられ、 残った現金10万円が営業利益となり、自分の出資分への配当と、借入金返済に当てられる。

貸借対照表の仕組みと資金の回転



流動項目と固定項目の区別

「営業循環基準」:

企業経営の主目的である営業取引によって発生した資産・負債の項目を"流動"に分類する。

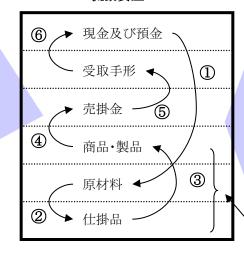
「ワン・イヤー・ルール」:

営業循環の過程から外れている項目に適用するルールで、 決算日の翌日から一年以内に入金や支払の期限が到来するものを"流動"に分類する。

これらの両方の基準によって"流動"に分類されなかった項目を、"固定"に分類する。

※説明の簡略化のため、繰越資産の項目は割愛

流動資産



- ① 現預金で、原材料を買う
- ② 原材料を加工する
- ③ 商品・製品が完成する
- ④ 商品・製品が販売される
- ⑤ 請求に対して、手形を受け取る
- ⑥ 手形の期日が来て、現金を回収する

※これらをまとめて棚卸資産と呼ぶ

貸借対照表は企業の財産の目録

「右側(貸方)」:

企業の財産の源である「資金」の出元を一覧にしたもの。負債は他人からの 資金を指し、資本は株主(会社の所有者)の資金を指している。

「左側(借方)」:

企業を経営していく上で「資金」が、どのような形に変わっているかを一覧に したもの。

貸借対照表の右側と左側の合計額は必ず一致する。貸借対照表を英語で、Balance Sheet (B/S) と言うが、これは左右が常に同額となることから、つけられた名前。